



02

— 基本構想 —

目指すまちの姿

目指すまちの姿に込めた思い

施策大綱

みんなでつくる 輝きつづける “ちょうどいい”まち

～優しく育む 豊かで安心な ながいずみ～

〈目指すまちの姿に込めた想い〉

長泉町は、近接する東海道新幹線三島駅や新東名高速道路長泉・沼津ICなどの立地による交通利便性の良さや豊富な地下水等の資源を活かした産業集積と、自然を肌で感じられる快適な住環境を魅力に、豊かで活力のあるまちとして発展してきました。長泉町が全国でも指折りの豊かな財政力があり、人々に選ばれ続けるまちであることは、様々な指標でも示されています。

また、子育てしやすいまち、健康に暮らせるまちといった安心感や、子育て支援などの活発な住民活動も長泉町の特徴であり、このような町に愛着を持つ町民が多いことから心の「豊かさ」を持てるまちであることを表しています。

一方で、超高齢社会の到来や人口減少は、長泉町においても他人事ではありません。行政面の課題だけでなく、「家の周りのお店が減った」「バス路線が廃止になった」「近所付き合いが減った」といった私たちの普段の生活に影響するような変化もあらわれ始めています。

このまちが好きだから、楽しみたい。

このまちが好きだから、つながりたい。

このまちが好きだから、守りたい。

このまちが好きだから、盛り上げたい。

— そして、ずっと住み続けたい。

私たちがそんな想いをもって暮らすことで、厳しい時代の中にあっても、長泉町が今以上に魅力的なまちになっていくと信じています。

私たち全員が自分の暮らすまちを愛し、一人ひとりにとって“ちょうどいい”まちを目指す決意を込めて、「みんなでつくる 輝きつづける “ちょうどいい”まち」をこれからの目指すまちの姿とします。



〈施策大綱〉

「みんなでつくる 輝きつづける“ちょうどいい”まち」を目指すにあたって、次の4つの基本目標と8つの政策を掲げ、みなさんにとって

「**優しく育む** **豊かで安心な** **ながいすみ**」を実現していきます。

また、推進目標を掲げ、まちづくりに合わせて、みなさんがまちの取り組みや魅力を知り、誇りに感じたり誰かに伝えたりしたくなるような積極的な情報共有を推進します。

基本目標 1

いきいきとした暮らしを支える
優しい **ながいすみ**

政策1 健康で幸福を実感できるまちの実現
政策2 認め合い 支え合うまちの実現

基本目標 2

全ての人の成長と活躍を
育む **ながいすみ**

政策3 未来へつながる 子育て・教育環境の実現
政策4 自分らしく活躍できるまちの実現

基本目標 3

住みやすく働きやすい
豊かな **ながいすみ**

政策5 持続的に発展するまちの実現
政策6 快適で便利なまちの実現

基本目標 4

絆でつながる
安心な **ながいすみ**

政策7 共につくる 活発なまちの実現
政策8 助け合い いのちを守るまちの実現

推進目標 町民との情報共有に支えられた効率的な行財政運営



基本目標1

いきいきとした暮らしを支える 優しい ながいずみ

健康でいきいきと、住みなれた地域で暮らし続けるために、町民の自主性や主体性を尊重するとともに、地域で支え合う体制を構築し、誰もが健康長寿で自分らしい人生を送ることができるまちづくりを目指します。

用語解説

- ※1 包摂的な社会 社会的に弱い立場にある人々をも含め一人ひとり、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会の一員として取り込み、支え合う社会。
- ※2 地域包括ケアシステム 要介護の状態となっても、住みなれた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるように、地域内で助け合う仕組み。それぞれの地域の実情にあった、医療、介護、予防、住まい、生活支援を一体的に提供する体制。

政策1 健康で幸福を実感できるまちの実現

一人ひとりが健康の大切さを実感し、健康・長寿社会を構築していくため、生涯を通じた健康づくりやこころとからだの病の予防対策を推進し、健康寿命の延伸と健康格差の縮小に取り組みます。

また、ライフステージに応じた心身機能の維持向上により、生活の質を向上させるとともに、様々な世代・地域が一体となって健康づくりに取り組み、社会環境の質の向上を目指します。

政策2 認め合い 支え合うまちの実現

年齢や障がいの有無に関わらず、住みなれた地域や家庭で、互いに理解し尊重しあい、生きがいに満ちた生活を続けるため、地域で支え合う体制の構築と、すべての人が大切にされる包摂的な社会※1の実現を目指します。

誰もが、いつでも適切に、介護サービスや福祉サービスといった社会保障が受けられるよう、地域における支え合いやセーフティネットの充実に努めます。

また、高齢者が可能な限り住みなれた地域で、自立して自分らしい暮らしを続けることができるよう、長泉町らしい地域包括ケアシステム※2を推進します。

優



基本目標2

全ての人の成長と活躍を 育む ながいずみ

お互いの多様性を尊重し合える環境を構築し、ライフスタイルやライフステージに関わらず、誰もが成長し、活躍できるまちづくりを目指します。

用語解説

※1 ワーク・ライフ・バランス 仕事と生活の調和。一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、人生の各段階に応じて多様な生き方が選択、実現できる社会。

政策3 未来へつながる 子育て・教育環境の実現

全ての家庭が安心して子育てに取り組み、このまちで育てる喜びを感じられる環境を実現するため、切れ目のない子育て支援に関する行政サービスの充実だけでなく、地域総がかりで子育てを支えることができるまちを目指します。

また、子どもたちが安全で快適に学びつつ、自分を取り巻く環境が大きく変化する中でも生きる力を育めるよう、ハード・ソフトの両面から教育環境の整備を推進します。

政策4 自分らしく活躍できるまちの実現

誰もが自分らしいライフスタイルで活躍できる環境が、このまちでの生活を充実したものとします。子育てや介護をしながらでも働き続けられる、自分に合ったワーク・ライフ・バランス※1を選択できる、性別、信仰、障がいの有無等によることなく自己実現の機会を得られるといった多様性への配慮ができるくらしの実現を目指します。

また、年齢や境遇に関係なく、趣味やボランティア、スポーツなどに打ち込める環境が身近にあることは、人生をより豊かにします。子どもから高齢者、障がいを持つ方まで、誰でも体を動かせる環境や機会の整備を、行政と地域が一体となって進めることで、心も体も健やかに過ごせるまちづくりを推進します。

加えて、文化財の保存・活用、町民の文化芸術活動の普及促進といった文化の薫りがするまちづくりを目指します。





基本目標3

住みやすく働きやすい 豊かなながいずみ

まちの発展を支える地域産業の継続的な展開を推進するとともに、多彩なライフスタイルを創出し、誰もが豊かさを実感できるまちづくりを目指します。

用語解説

※1 低炭素・循環型社会 二酸化炭素の排出が少なく、資源の消費が抑制され環境への負荷が少ない、生活の豊かさを実感できる社会。

政策5 持続的に発展するまちの実現

地域産業の活性化は、まちの発展を支え、まちの活力を生み出します。現在のまちの活力を支えている既存産業の振興、新たな起業への支援、経営相談等を充実するとともに、既存企業の転出防止、新たな企業誘致を進めます。

また、特産品の情報発信の強化、地域資源の一層の活用による魅力的な観光交流の取り組みや、周辺市町を含めた広域の産業経済圏における各産業の交流・連携を促進し、まちの活性化を図ります。

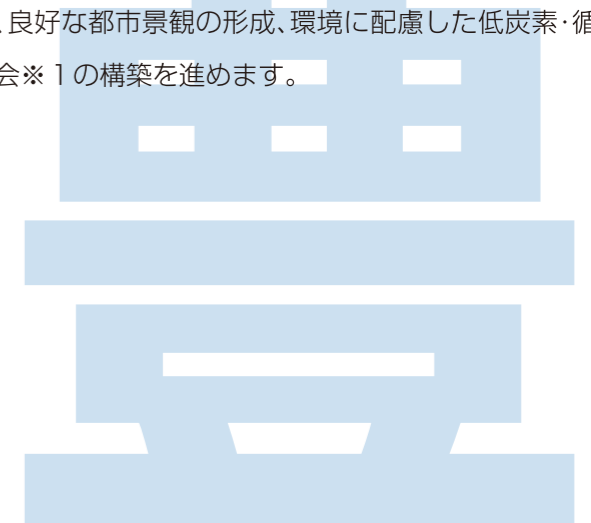
さらに、町内の企業等に対し町民が誇りを感じ、若者世代の就職への気運を促進できるよう、町内の企業等の情報発信に努めます。

政策6 快適で便利なまちの実現

ゆとりあるライフスタイルを実現し、誰もが住みたいまちであると誇りを感じられるような快適で安心して暮らせる持続可能なまちづくりに努めます。そのために、利便性と安全性を高める都市基盤の整備や土地利用の誘導を計画的に進めるとともに、効率的で調和のとれた集約型の都市構造の形成を図ります。

また、駅周辺の都市機能誘導や、魅力ある住環境の創出、道路・公園・河川の整備や公共交通の充実により、住みたい、住み続けたいまちの実現を目指します。

加えて、地域の特性を大切にしたい潤いを感じる居住環境や、良好な都市景観の形成、環境に配慮した低炭素・循環型社会※1の構築を進めます。





基本目標4

絆でつながる 安心な ながいずみ

安心して住みなれた地域で暮らし続けることは、町民共通の願いです。

そのために、様々な地域課題の解決に向けて、町民同士が絆を深めつつ、お互いに助け合い、行政と連携してしなやかに強いまちづくりを目指します。

用語解説

※1 自助・共助・公助

自助：自分で守ること 共助：周りの人たちと助け合うこと 公助：公的支援のこと
災害時には互いに連携し一体となることで、被害を最小限にできるとともに早期の復旧、復興につながる。

政策7 共につくる 活発なまちの実現

時代の変化とともに多様化・複雑化する住民ニーズに対応するため、行政はもとより町民の主体的な関わりによるまちづくりを進めるとともに、町民と行政が共通の目的を実現するために、それぞれの果たすべき役割を自覚し、相互に協力し合えるまちを目指します。

そのためにも、多様な町民の参画を促進するとともに、地域で活動する様々な団体や事業者等が実践的な取り組みを展開し、公益的な活動の担い手となるよう、行政と町民・事業者等の協力関係の構築に努めます。

加えて、地域イベントや住民サークル活動のさらなる振興を推進し、町民が地域でのつながりをつくり、自分らしく活躍できる場を確保することで、まちのにぎわいを創出します。

政策8 助け合い いのちを守るまちの実現

大規模自然災害等が発生した際にも、自助・共助・公助※1に基づく取り組みが有効に機能し、町民の生命や生活が守られるまちづくりを目指します。

住宅や公共施設の耐震化等のハード対策のみならず、町民が地域への理解を深めるとともに、自らの安全について主体性を持つよう、地域の実情に則した避難訓練等を実施することにより、町民の日頃のコミュニティ活動を推進するソフト対策にも取り組み、地域の防災力向上を図ります。

また、犯罪や交通事故からも町民を守ることでできるまちづくりに向け、引き続き地域での防犯活動、交通安全活動を進めます。

そして、これらの取り組みを通じて、日頃から町民、事業者、行政など様々な主体の連携を強化し、自らのいのちを守るまちを実現します。



推進目標

町民との情報共有に支えられた 効率的な行財政運営

町民の多様なライフスタイルや価値観に対応した様々な情報媒体を活用した広報事業や、情報公開の充実、住民意識のきめ細かな把握、各種審議会への住民参画の拡充等により、幅広く町民の声を行政に反映する広聴事業の充実を図ることで、町民との情報共有をさらに推進するとともに、町民、地域、NPO、企業等の様々な主体との協働を促進する仕組みや環境の整備を進めます。

優先すべき行政課題を的確に選択することで施策の重点化を行うとともに、必要に応じて施策の再構築を行い、町民目線での成果を重視し、スピード感のある行政運営を進めます。

また、将来にわたり持続可能な形で必要なサービスを安定的に提供し、町民の満足度を高めていくために、これまで以上に限られた経営資源を有効に活用することで、スマート自治体※1を推進し、さらなる行政運営の合理化・効率化を進めるとともに、さらに新たな財源の確保に努めることで、引き続き健全な財政運営の維持を図ります。

そして、広域的な視点に立ち、町民にとってより効果的、効率的な行政サービスの実現に向け、自治体間の広域連携に努めます。

用語解説

※1 スマート自治体 人口減少が深刻化してもAI等の技術を駆使し、効率的かつ持続可能な形で行政サービスを提供する自治体のあり方。